

群馬県中部地域におけるナシの天敵ミヤコカブリダニ導入によるハダニ類防除マニュアル

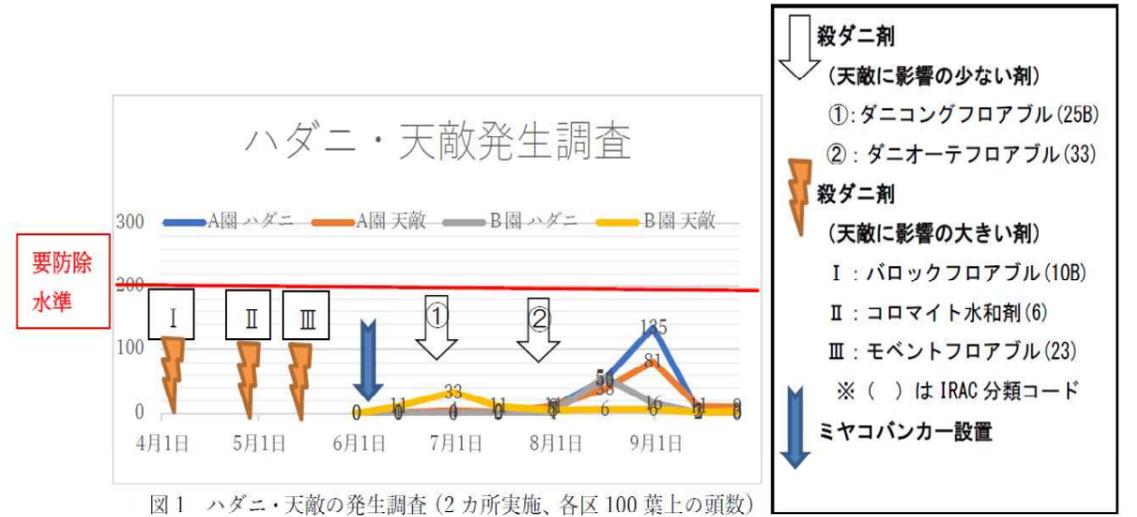
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全般	<p style="text-align: center;">5月下旬～6月上旬 ミヤコカブリダニ製剤設置 設置時期が遅れると効果が低下するので注意</p> <p style="text-align: center;">年間を通して、土着天敵（生態系において、そのナシ園に自然に存在する天敵）と放飼天敵（ミヤコカブリダニ）が生息しやすい環境づくりを心がける</p>												
下草管理	<p>刈り過ぎない「適度な草丈」での管理を目標とし、全面刈をしてもよいが、幹周りは草を残す。</p> <p>年間を通じて、可能な限り除草剤を使用しない。</p>	<p>5月の連休以降に高温乾燥が続く場合は除草しない。</p> <p>5月上旬までに除草して、中下旬の除草作業は天候等の状況により判断する</p>	<p>梅雨時期は通路刈り（写真1）を基本とし、実施頻度は月2回までとする。（降雨前か降雨時に実施）</p> <p>ただし、カラ梅雨の場合は刈幅と実施時期、回数に注意する。</p>	<p>梅雨明け以降は、なるべく草刈りを控え、実施する場合は、降雨前か降雨時に実施。</p>	<p>過繁茂により作業に支障が生じる場合は、可能な限り「草倒し」もしくは「刈幅の狭い通路除草」等に対応する。</p> <p>→草の量を変えない →ハダニ類の生息場所を減らさない</p>	<p>残暑が落ちついたら通路除草を行う。</p>	<p>ハダニ類の発生量が減少したことを確認して適切に除草を行う。</p>	 <p style="text-align: center;">写真1 通路除草</p>					
樹体管理	<p style="text-align: center;">——— 摘心・誘引により園内の風通しを良くする ———</p> <p>湾曲した葉（写真3：裏面）はハダニ類の発生源となりやすいため葉果比に配慮しながら適宜取り除く等の対策をする</p> <p style="text-align: right;">【冬期】風通しを意識した剪定の実践 ハダニ類の越冬数軽減を図り「粗皮削り」（写真2）の実施</p>												
ハダニ類の発生状況観察	<p style="text-align: center;">← 5月中旬～9月上旬はハダニ類の発生をよく観察する → （ルーペや虫めがねを用いて、1週間間隔で1園あたり100葉程度の調査が望ましい。）</p> <p style="text-align: center;">↑ ミヤコカブリダニ放飼前に放飼前防除を行う。（5月）</p> <p style="text-align: center; color: red;">要防除水準は（2頭／葉）を基準とし、 早めの防除を心がける（写真4：裏面）</p>												
ダニ剤	<p>天敵放飼前にカブリダニ類に影響のある農薬を使用する場合は、影響日数を考慮した上で適切な時期に散布し、ハダニの密度を可能なかぎりゼロにして、ミヤコカブリダニ製剤を設置する。</p> <p>（放飼前防除）</p> <p>天敵がナシの葉上で定着するまでの設置後1ヶ月はハダニ類の発生に注意し、上記基準を参考に必要な場合はカブリダニ類に影響の少ない剤で防除を実施する。（レスキュー防除）</p> <p>梅雨が明け後はハダニ類が増加しやすいので、確認されたら速やかにカブリダニ類に影響の少ない剤を散布する。（補完防除）</p>												
農薬全般	<p>（放飼前防除）</p> <p style="text-align: center;">コンフューザーN設置</p> <p>ミヤコカブリダニ剤設置以降は農薬の選択に特に注意する （殺菌剤でも影響を及ぼす成分がある）</p> <p>ハダニ類や他の害虫が多発した場合は、早めに農業事務所やJA等に相談する。</p> <p>理論的には秋以降も（年間を通じて）天敵に影響の少ない剤を用いると、ミヤコカブリダニをはじめとした土着天敵類の越冬数は増加する。</p>												
その他	年間計画を立てる	<p>多目的防災網は、ひょう害対策に有効であるが園内の温度上昇につながりやすい。防鳥網は気象災害に弱い反面、園内の環境はハダニ類対策に有効である。</p>										<p>収入保険への加入も有効である</p>	裏面に続く

ミヤコカブリダニ導入にあたっての注意点

下記事項にも注意して総合的な病害虫防除管理等に努めましょう。

懸案事項	対応策等
黒星病への対応	ミヤコカブリダニに影響のある殺菌剤は使用しにくい状況になることから、FRAC コード分類を今まで以上に意識し、系統の異なる薬剤のローテーション散布に心がける。 秋防除や落葉処理等の耕種的防除を必ず実施する。
ニセナシサビダニ対策 (写真5)	ニセナシサビダニに効果のある薬剤の中には、ミヤコカブリダニに影響を及ぼす製品もあるため、影響日数を考慮した上で早めの防除を心がける。
シンクイムシ類	使用可能な薬剤が限定されることや、当害虫はミヤコカブリダニ放飼後にナシへの加害が始まるため、交信攪乱剤（コンフューザーN等）の設置等により対策を図る。 県の発生予察情報に留意する。
カメムシ類	果実が吸汁被害を受けるため、多目的防災網の設置は有効であるが、前ページ「その他」欄に記した課題がある。 県の発生予察情報に留意する。
<u>草繁茂と農作業安全</u>	従来のような全面の除草作業は、ハダニ類の発生を助長するため控える。しかし、伸びた草が農作業時に足や運搬機具等からみやすくなるので、農作業安全を第一に考えて、作業に支障がでないよう通路除草等の管理（写真1）を行う。

防除体系の実践例（R5年度実証ほ結果より）



※ 農薬の登録内容は随時変更されますので、農薬はラベルの使用方法や注意事項に加え、最新の農薬登録情報をご確認ください。



写真3 湾曲した葉
薬剤がかかりにくくハダニ類が生息しやすい環境である



写真4 ハダニ類の被害葉
このような症状が見られる前にダニ剤を散布する



写真5 ニセサビナシダニ被害葉



ミヤコカブリダニ（ハダニ類を積極的に捕食する）



天敵製剤（ミヤコバンカーは主幹周りに固定して設置）

発行日：令和6年3月

問合せ：群馬県中部農業事務所普及指導課 TEL 027-233-9255 FAX 027-233-9257

作成協力：JA前橋市、前橋市、全農ぐんま、石原バイオサイエンス

本マニュアルは「令和5年度グリーンな栽培体系への転換サポート事業」の支援を受けて実施した成果を含む。